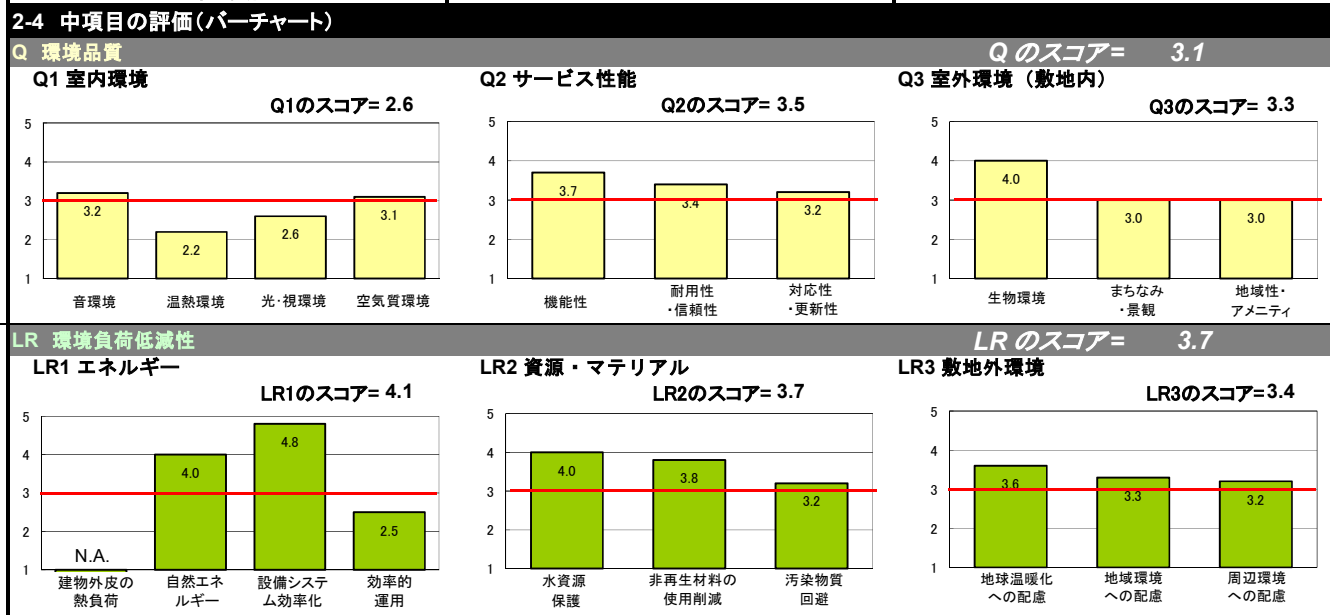
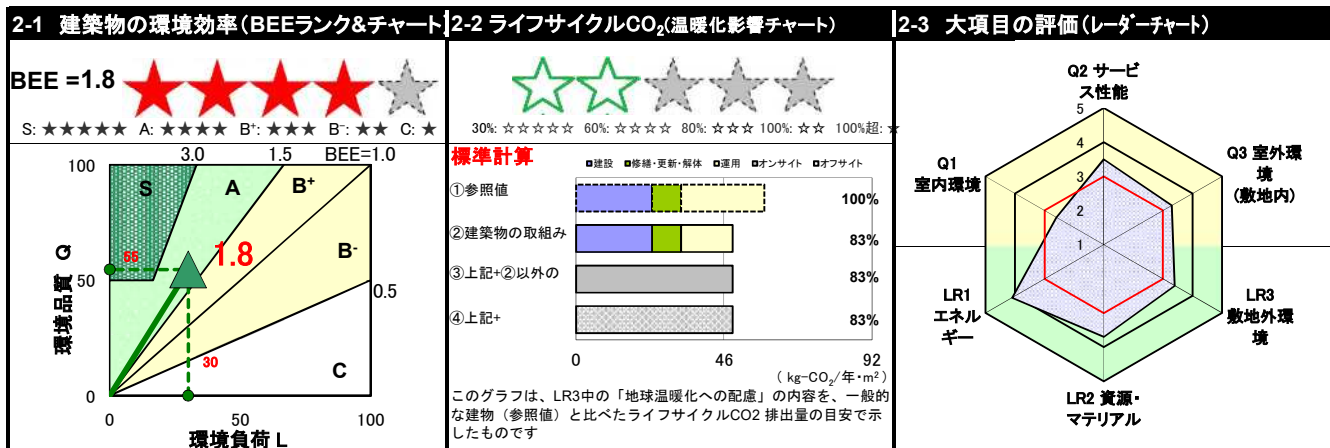


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 18059

建築物名称	橋処理センター
建築主	川崎市長 福田 紀彦
建築物の所在地	川崎市高津区新作1丁目1787番3ほか
設計者氏名、建築士事務所名	曾根 奨 大成建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	30,958.64㎡
用途	ごみ焼却場
構造	SRC造、RC造、S造
階数	地上5階、地下2階
工事完了年月	令和6年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	橋処理センター	階数	地下2階、地上5階
建設地	川崎市高津区新作1丁目1787番3ほか	構造	SRC造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	60人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2024年3月 竣工	評価の実施日	2024年2月21日
敷地面積	24,489 m ²	作成者	小山 聡美
建築面積	13,485 m ²	確認日	2024年2月21日
延床面積	30,959 m ²	確認者	曾根 奨
		外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	3.2
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	敷地周辺の緑と調和するよう配慮し、緑化面積は敷地面積に対して25%以上確保。	2.9/4.3	3.4
2 まちなみ・景観への配慮			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑被率を30%以上確保し、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	地表面対策面積率を45%以上確保し、敷地外への熱的な影響を低減。	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.5
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.4/0.7	3.0
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	緑化面積は敷地面積に対して25%以上確保し、敷地や建物の植栽条件に応じた緑地づくりを行っている。	1.7/2.3	3.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	建築設備に伴う排熱はGL+10m以上で放出するよう計画としている。		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用	ピット上部にトップライトを採用。	4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	高効率な空調機を採用。		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	植栽への灌水で雨水を利用。プラント排水は処理後、再利用水として利用(一部床散水)。	3.5/4.7	3.8
2 非再生性資源の使用量削減	躯体材料に高炉セメントを採用。躯体以外の材料でもリサイクル資材を3品目以上採用している。		
3 3.2 フロン・ハロンの回避	一部の室にて不活性ガス消火剤を採用。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.4
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	浴室等の高湿系排気ダクトに塩ビダクトを採用。	0.3/0.5	2.9
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護		3.1/4.0	3.9
2 非再生性資源の使用量削減	躯体材料に高炉セメントを採用。躯体以外の材料でもリサイクル資材を3品目以上採用している。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	敷地内に従業員及び利用者の駐輪場と駐車場を適切に計画。	0.3/0.4	3.9
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.6
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	敷地および建物周囲に適度な緑化計画を行っている。	1.7/2.3	3.7
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	緑被率を30%以上確保し、地表面温度や地表面近傍の気温等の上昇を抑制。建築設備の排熱位置等を考慮した計画。		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用	ごみピット上部にトップライトを採用。	4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	高効率な空調機を採用している。		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.5**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		1.0/1.2	4.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメントの採用。		
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用	ごみピット上部にトップライトを採用。	4.1/5.0	4.1
3 設備システムの高効率化	高効率な空調機を採用している。		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	G	W	R	H		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										3.1
Q1 室内環境							0.30		-	2.6
1 音環境						3.2	0.15		-	3.2
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	3.0	-	
1.2 遮音						3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音					天井:岩綿吸音板、床:タイルカーペットを採用している。	4.0	0.20	3.0	-	
2 温熱環境						2.2	0.35		-	2.2
2.1 室温制御						2.2	0.50		-	
1 室温		W				3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	3.0	-	
3 ゾーン別制御性						1.0	0.38		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境						2.6	0.25		-	2.6
3.1 昼光利用						1.8	0.30		-	
1 昼光率						1.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口							-	3.0	-	
3 昼光利用設備		W				3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30		-	
1 昼光制御		W				3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	-	
4 空気質環境						3.1	0.25		-	3.1
4.1 発生源対策						3.0	0.50		-	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気						3.3	0.30		-	
1 換気量					空調設備は中央管理方式ではないが、建築基準法および建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍としている。	4.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能						3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理						3.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御						3.0	0.50		-	

Q2 サービス性能					3.0	0.30	-	-	3.5						
1 機能性									3.7						
1.1 機能性・使いやすさ									3.7						
1	広さ・収納性			川崎市福祉のまちづくり条例に適合した計画としている。 天井高はCH3000とし、開閉可能な開口を設けている。 男女別の休憩室を計画し、休憩室と隣接している食堂には給湯設備を設置する。 外観色のイメージを内部空間にも取り込み、色の連続性を持たせた。 内部カースキームにおいてはパースを作成し、事前検証を行った。 内装は防汚性の高い仕上げを採用し、外装は長期耐久性のある塗装材を施工する。	3.0	0.33	3.0	-							
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-							
3	バリアフリー計画				4.0	0.33	-	-							
1.2 心理性・快適性										4.6					
1	広さ感・景観				5.0	0.33	3.0	-							
2	リフレッシュスペース				5.0	0.33	-	-							
3	内装計画				4.0	0.33	-	-							
1.3 維持管理										3.5					
1	維持管理に配慮した設計				4.0	0.50	-	-							
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-							
2 耐用性・信頼性									3.4						
2.1 耐震・免震・制震・制振									3.4						
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			建築基準法に定められた基準より25%増の耐震性能を保有。	4.0	0.80	-	-							
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-							
2.2 部品・部材の耐用年数									2.9						
1	躯体材料の耐用年数		R	3.0	0.20	-	-								
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		R	2.0	0.20	-	-								
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		R	3.0	0.10	-	-								
4	空調換気ダクトの更新必要間隔		R	4.0	0.10	-	-								
5	空調・給排水配管の更新必要間隔		R	3.0	0.20	-	-								
6	主要設備機器の更新必要間隔		R	3.0	0.20	-	-								
2.4 信頼性									3.4						
1	空調・換気設備			節水型器具を採用。また、中水は再利用する計画としている。 基本的に耐震クラスAとしている。	3.0	0.20	-	-							
2	給排水・衛生設備				4.0	0.20	-	-							
3	電気設備				3.0	0.20	-	-							
4	機械・配管支持方法				4.0	0.20	-	-							
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-							
3 対応性・更新性									3.2						
3.1 空間のゆとり									3.2						
1	階高のゆとり			階高は3.9m以上確保。	5.0	0.60	3.0	-							
2	空間の形状・自由さ				2.0	0.40	3.0	-							
3.2 荷重のゆとり									3.0						
3.3 設備の更新性									3.0						
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-								
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-								
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-								
4	通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-								
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-								
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-								
Q3 室外環境(敷地内)									3.3						
1 生物環境の保全と創出				G	W				H	敷地周辺の緑と調和するよう配慮し、緑化面積は敷地面積に対して25%以上確保している。	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮				G							3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮											3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上											3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W					H	3.0	0.50	-	-	

LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.7
LR1 エネルギー					0.40	-	-	4.1
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H		-	-	-	-
2 自然エネルギー利用	W		H	ブラットホームおよびごみピット上部にトップライトを採用している。	4.0	0.13	-	4.0
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEIm] = 0.62	4.8	0.63	-	4.8
4 効率的運用					2.5	0.25	-	2.5
集合住宅以外の評価					2.5	1.00	-	-
4.1 モニタリング	W		H		3.0	0.50	-	-
4.2 運用管理体制	W		H		2.0	0.50	-	-
集合住宅の評価					-	-	-	-
4.1 モニタリング	W		H		3.0	-	-	-
4.2 運用管理体制	W		H		3.0	-	-	-
LR2 資源・マテリアル					0.30	-	-	3.7
1 水資源保護	W		R		4.0	0.20	-	4.0
1.1 節水				節水コマや節水型便器を採用している。	4.0	0.40	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					4.0	0.60	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				雨水を植栽の灌水用として利用する計画としている。	4.0	0.70	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				雑排水を機械室等で利用する計画としている。	4.0	0.30	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					3.8	0.60	-	3.8
2.1 材料使用量の削減	W		R		3.0	0.10	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W		R		3.0	0.20	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R	高炉セメントの採用	5.0	0.20	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R	磁器質タイル、フリーアクセスフロア、ビニル床シート、ボード	5.0	0.20	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W		R		3.0	0.10	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W		R		3.0	0.20	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.2	0.20	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					3.3	0.70	-	-
1 消火剤	W			不活性ガス消火剤の採用。	4.0	0.33	-	-
2 発泡剤(断熱材等)	W				3.0	0.33	-	-
3 冷媒	W				3.0	0.33	-	-
LR3 敷地外環境					0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	W			一般的な建物と比較して83%としている。	3.6	0.33	-	3.6
2 地域環境への配慮					3.3	0.33	-	3.3
2.1 大気汚染防止				大気汚染防止法に基づく基準値を下回る計画としている。	4.0	0.25	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H		3.0	0.50	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.5	0.25	-	-
1 雨水排水負荷低減			R		3.0	0.25	-	-
2 汚水処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	-
3 交通負荷抑制			R	自転車および自動車の附置義務条例に関しては対象外だが、既存施設同等の台数を確保している。	5.0	0.25	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			R		3.0	0.25	-	-

3 周辺環境への配慮						3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						3.0	0.40	-	-	
1	騒音					3.0	0.33	-	-	
2	振動					3.0	0.33	-	-	
3	悪臭					3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制					3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制					3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制						4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				屋外広告物および屋外広告行為の計画はなし。	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	